

安全データシート

作成日2010年4月19日

改訂日2013年3月8日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 マルセル ガムとり
 製品コード 0104021
 会社名 日本マルセル株式会社
 住所 〒116-0002 東京都荒川区荒川2-23-3
 電話番号 03-3803-1751
 緊急時の電話番号 03-3803-1751 (担当: 技術開発部)
 FAX番号 03-3805-0039
 メールアドレス
 推奨用途及び使用上の制限 チューイングガム、シールのり跡の洗浄。定められた用途以外に使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

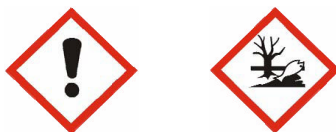
物理化学的危険性
健康に対する有害性

分類対象外、区分外又は分類できない
 急性毒性 (経口) 区分外
 急性毒性 (経皮) 分類できない
 急性毒性 (吸入: 蒸気) 分類できない
 急性毒性 (吸入: ミスト) 分類できない
 皮膚腐食性/刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 分類できない
 呼吸器感作性 分類できない
 皮膚感作性 区分1
 生殖細胞変異原性 分類できない
 発ガン性 分類できない
 生殖毒性 分類できない
 特定標的臓器・全身毒性 (単回曝露) 分類できない
 特定標的臓器・全身毒性 (反復曝露) 分類できない
 吸引性呼吸器有害性 分類できない
 水生環境有害性 (急性) 区分1
 水生環境有害性 (慢性) 区分1
 オゾン層への有害性 分類できない

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
 皮膚刺激
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
 水生生物に非常に強い毒性あり
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性あり
【安全対策】
 取扱い後はよく洗うこと。
 保護手袋を着用すること。
 粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレアの吸入を避けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること
【救急処置】
 皮膚に付着 : 多量の水と石鹼で洗うこと。
 した場合 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
 漏出物を回収すること。
【保管】
 涼しく換気の良い場所で保管すること。
【廃棄】
 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
 国・地域情報 情報なし

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別
一般名

混合物
洗浄剤

化学名又は一般名	化学式	濃度 (%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS番号
柑橘類果実抽出物	非公開	非公開	あり	非公開
ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	C18H29NaO3S	2.0	(3)-1949	25155-30-0
非イオン系界面活性剤	非公開	非公開	あり	非公開
天然系増粘性剤	非公開	非公開	あり	非公開
水	H2O	非公開	対象外	7732-18-5

* 化学物質排出把握管理

第1種指定物質(法第2条第2項、施行令1条別表第1)

促進法（P R T R法）

C10-C14直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩(政令番号 第30号):2.0%含有

4. 応急措置

吸入した場合
皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
多量の水と石けんで洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合

飲み込んだ場合

予想される急性
及び遅発性症状
最も重要な兆候及び症状
応急処置をする者の保護
医師に対する特別注意事項

データなし
データなし
データなし
データなし

5. 火災時の措置

消火剤
使ってはならない消火剤
火災時の特有の危険有害性

粉末、二酸化炭素、泡、散水又は噴霧水。
棒状放水
製品自体は引火しないが、製品中の水分が蒸発すると燃焼する。
火災によって、刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火作業の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用すること。

特有の消火方法

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急措置

直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていない時は破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
環境中に放出してはならない。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
乾燥土、砂等の不活性材料で吸収する。あるいは覆って密閉できるポリ製空容器に回収する。吸収や回収したものは、後で廃棄処理する。
危険でなければ漏れを止める。容器を回収する。
排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境に対する注意事項

回収、中和

封じ込め及び浄化の方法
・機材二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策
局所排気装置・全体換気
安全取扱い注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。
換気の良い場所で使用すること。
容器は丁寧に取扱い、使用後は密栓する。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
眼に入れないこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく洗うこと。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

接触回避

保管

技術的対策
混触危険物
保管条件
容器包装材料

取扱う場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
容器は密閉し直射日光を避け、涼しく換気の良い場所で保管すること。
他の容器への小分け、移し換えは不可。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度（ばく露限界値
、生物学的ばく露指標）
設備対策

設定されていない
設定されていない
この製品を貯蔵ないし取扱う作業場には、洗面所やシャワーを設備すること。
閉所、狭所又は高温で取扱う場合には、換気を行なうこと。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護具
衛生対策

特に必要としない。
保護手袋を着用すること。
眼の保護具着用が望ましい。
通常の作業衣。
取扱い後はよく洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的及び化学的性質

形状
外観
臭い
pH
融点／凝固点
沸点、初留点及び沸騰範囲

液体（やや粘ちょう）
乳白色
柑橘臭
6.5－7.5
データなし
データなし

引火点	製品として認められない
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度（空気＝１）	データなし
比重（密度）	0.93 (20℃)
溶解性	水に乳化する
オクタル／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝１）	データなし
燃焼性（固体、ガス）	該当しない
粘度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取扱い温度、圧力で安定。
危険有害反応可能性	酸化剤との混触。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼した場合、一酸化炭素等の有害なガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	各成分の毒性値の合計から得られた推定毒性値が2,000より大きい「区分外」とした。
急性毒性（経皮）	各成分の毒性値の合計から得られた推定毒性値から判断すると区分外となるが、毒性が不明な成分が約2%含まれているため「分類できない」とした。
急性毒性（吸入：蒸気、ミスト）	データなし
皮膚腐食性／刺激性	区分2の成分の濃度合計が10%以上のため「区分2」とした。
眼に対する 重篤な損傷／刺激性	眼刺激性区分1及び区分2の成分、皮膚刺激性区分1の成分いずれも含まれず、眼刺激性区分2Aの成分も10%以上含まれないため区分外であるが、毒性不明な成分が30%以上含まれているため「分類できない」とした。
呼吸器感受性	データなし
皮膚感受性	区分1の成分がカットオフ値1%以上含まれるため「区分1」とした。
生殖細胞変異原性	区分1 (0.1%以上)、区分2 (1%以上)に該当する成分が無いため区分外であるが、毒性が不明な成分が3%以上含まれているため「分類できない」とした。
発がん性	区分1 (0.1%以上)、区分2 (1%以上)に該当する成分が無いため区分外であるが、毒性が不明な成分が3%以上含まれているため「分類できない」とした。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器／全身毒性 単回暴露	区分1 (1%以上)、区分2 (10%以上)、区分3 (20%以上)に該当する成分が無いため区分外であるが、毒性不明な成分が30%以上含まれているため「分類できない」とした。
反復暴露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	区分1の成分の濃度合計がカットオフ値25%以上であるため「区分1」とした。
水生環境有害性（慢性）	急性有害性が区分1であり、急速分解性でない(BIOWIN)ことから「区分1」とした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄は関連法規ならびに地方自治体の基準及び地域の条例、規則に従う。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこへ委託処理する。
排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託処理する事。
空容器等を廃棄する場合は、水洗いなど内容物を完全に除去した後処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
航空規制情報	ICAO／IATAの規定に従う。
国連分類及び国連番号	分類基準に該当しない。
国内規制	
陸上規制情報	消防法、毒劇物法、労働安全衛生法に該当する場合は、該当規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法に規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別の安全対策	運搬に際しては輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実にする。 『7. 取扱い及び保管上の注意』に従うこと。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
化学物質排出把握管理	第1種指定物質（法第2条第2項 施行令1条別表第1） 「3. 組成 成分情報」参照

促進法（P R T R法）	第1種指定物質（第4類第4項、第5類第1項）：含有しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない
火薬類取締法	該当しない
高圧ガス保安法	該当しない
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない
その他の規制	
内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）：含有しない	
学校環境衛生基準検査物質：含有しない	
シックハウス・シックスクール 関連室内空気汚染物質	厚生労働省指針値該当14物質成分は含有しない

16. その他の情報

引用及び参考文献	JIS Z 7253 化学物質安全データシート JIS Z 7252 GHS分類標準規格 製品安全データシートの作成指針（改訂2版 （社）日本化学工業協会） 化学物質の安全データシート（安全衛生情報センター発行） GHS混合物分類判定システム（GHS JIS版2010-1 経済産業省） 原料メーカー発行の安全データシート
----------	--

記載内容は、現時点で入手できる資料、データに基づき作成しており、新規知見により改訂されることがあります。
また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いの場合は、用途や用法に適した安全性の
評価と対策を実施の上ご利用下さい。記載内容は情報の提供であって、安全性を保証するものではありません。